

慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resources

Title	ベトナム語動詞のアスペクト的意味：đangとの共起関係から考える
Sub Title	Aspectual properties of Vietnamese verbs
Author	三上, 直光(Mikami, Naomitsu)
Publisher	慶應義塾大学言語文化研究所
Publication year	2016
Jtitle	慶應義塾大学言語文化研究所紀要 (Reports of the Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies). No.47 (2016. 3) ,p.241- 254
JaLC DOI	10.14991/005.00000047-0241
Abstract	
Notes	研究ノート
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00069467-00000047-0241

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ベトナム語動詞のアスペクト的意味 —dangとの共起関係から考える—

三 上 直 光

1. はじめに

ベトナム語は、文の事態内容を時間軸上に位置づけるための形態が体系化されていない言語である。基準時から見た事態の前後関係に関する情報は、主としてコンテクストや時間名詞句によって与えられるが、さらに必要に応じて用いられる *dã* 「既然」や *sẽ* 「未然」などの虚辞も一定の役割を果たす。そして、事態の開始、持続、終結といった特定の時間的局面を描写するには、それぞれに固有の語彙形式（アスペクト形式）が用意されている。文の表す事態がいつのことなのか、あるいはどういう局面にあるか、という時間的性質の規定には、コンテクストや語彙形式のほかに、動詞それ自体に内在するアスペクト的意味も深く関わっている。

本稿では、ベトナム語のアスペクト形式の中から、動き・状態の最中（=一時的な事態）を表す *dang*を取り上げ、動詞との共起関係の観察を通じて、ベトナム語の動詞が有するアスペクト的性質の一端を明らかにしたい¹⁾。

2. 独立文の時間的性質

ベトナム語は、事態の時間的解釈をコンテクストに依存する度合いの高い言語であると言えるが、前後の文脈のない独立文も、時を示す語句がなくて

『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』第47号（2016）pp.241~254

も、一定の時間的解釈が可能のようである。そこでまず、その点に関して「主語+述語」から成る単文を例に挙げて見ておこう²⁾。

- (1) a. Tôi có xe máy. (私+持っている+バイク) 私はバイクを持っている。
b. Nam cần tiền. (ナム+必要とする+お金) ナムはお金が必要だ。
c. Trời nóng. (天気+暑い) 暑い。

(1) の各文は、いずれも動きの展開のない静的な状態を指示示している。そして、その状態は発話時に位置づけられるという意味で、時間的に限定された性質を持つ。次の(2)も、表している事態は静的なものである。

- (2) a. Dơi là loài động vật có vú. コウモリは哺乳動物である。
(コウモリ+～である+類+哺乳動物)
b. Mai giống bố. (マイ+似ている+父) マイは父親似だ。

(2) は主体が恒常的・永続的に有している性質を述べている。(1)と(2)は時間的な限定の有無という点で違いがあるものの、どちらも静的な事態を表している。このような静的な事態(状態や性質)を表す動詞を静態動詞と呼ぶことにする。これに対して、動きを表す動詞(動態動詞と呼ぶ)がある。(3)の例を見よう。

- (3) a. Họ hát. (彼ら+歌う) 彼らは{歌う/歌った}。
b. Anh ấy mở cửa. (彼+開ける+戸) 彼は戸を{開ける/開けた}。
c. Chị ấy làm cơm. (彼女+作る+ごはん) 彼女は食事を{作る/作った}。
(3a~c) は動態動詞を述語とする文であるが、発話時から見た動きの時間的前後関係(発話時と同時的か、発話時より前か、後か)を判断するには情報が不足していると感じられる。しかし、同じく動きを表す動詞を含む文でも、(4)のように発話時にはすでに動きが終了していると解釈されるものもある。

- (4) a. Hoa ngồi. (ホア+座る) ホアは座っている。
b. Cửa sổ mở. (窓+開く) 窓が開いている。
c. Tiễn gãy xương. (ティエン+折れる+骨) ティエンは骨を折った。

(4a~c) の述語は(3)と異なり、主体の変化を含意するものであり、その変化の結果を表している。(1)~(4)に見られる時間的性質の相違には、動

詞に内在するアスペクト的意味が関与していることは明らかである。

本稿では、動詞のアスペクト的意味を抽出する方法として、*dang* と動詞との共起関係に手がかりを求める。ベトナム語の *dang* は、日本語の「～ている」や英語の進行形などに似た側面を持っており、動詞のアスペクト的性質を観察する上では有効な形式であると考えられる。

3. 動詞と *dang* の共起関係

以下では、動態動詞と静態動詞のそれぞれについて *dang* との共起関係を見ていく。

3. 1 動態動詞と *dang*

dang が表す「動きの最中」の意味は、持続性を有する動態動詞と共にした場合に典型的に認められる。

- (5) a. Thu *dang* *ăn phở*. トゥーはフォーを食べている。

(トゥー + 〈最中〉 + 食べる + フォー)

- b. Gió *dang* *thổi*. 風が吹いている。

(風 + 〈最中〉 + 吹く)

(5a)、(5b) はそれぞれ、主体が *ăn phở* 「フォーを食べる」、*thổi* 「吹く」という動きの最中にあることを示している。この場合、動きは変化なく持続している³⁾。

持続的な動きには、漸進的な変化を伴うものもある。この漸進性を表す動詞も *dang* と共に使う。

- (6) a. Dân số làng này *dang* *tăng*. この村の人口は増加している。

(人口 + 村 + この + 〈最中〉 + 増加する)

- b. Ván *dang* *béo lén*. バンは太ってきている。

(パン + 〈最中〉 + 太る)

(6b) の述語 *béo lén* (「太っている + 上がる」) を形成する *lén* は元来「上がる」を意味する動詞であるが、他の動詞の後に用いられ「増大」の変化の意味を

添える補助動詞的機能も有する（ra「出る」、đi「行く」などの方向動詞にも、変化を表す補助動詞的用法がある）。

主体の動きでも、持続性のない、瞬間的に終結する動きを表す動詞は、*dang* とは共起しない。ho「咳をする」、váp「つまずく」、mục kích「目撃する」などがその例である。

(7) Tuyết dang ho. トゥエットは咳をしている。

(トゥエット + 〈最中〉 + 咳をする)

ho「咳をする」は瞬間的な動きであり、(7) は1回の咳を問題にする場合の表現としては適切ではない。ただし、これを複数回にわたる咳に言及する文として見るならば、容認される。動きの反復は、時間幅を持って持続することであり、この意味によって *dang* との共起が可能になるわけである。

持続性動詞を含む下記 (8) も、反復的・習慣的な動作を表しうる（1回の動作も表しうる）⁴⁾。

(8) Bác đang học tiếng Nhật. バックは日本語を勉強しているところだ。

(バック + 〈最中〉 + 勉強する + 日本語)

(8) の文末に、反復的・習慣的動作を示唆する *mỗi ngày* 「毎日」などの語を置くこともできる⁵⁾。

(9) Bác đang học tiếng Nhật mỗi ngày. バックは今、毎日日本語を勉強している。

(バック + 〈最中〉 + 勉強する + 日本語 + 毎日)

(9) における *mỗi ngày* は情報の焦点として機能しているが、これを文頭に移して、文の主題に据えると、不自然な文になる。

(10) *Mỗi ngày Bác đang học tiếng Nhật.

(毎日 + バック + 〈最中〉 + 勉強する + 日本語)

(10) のように、習慣を表す語句をあらかじめ主題として提示する文は、*dang* の表す一時的な性質にはなじまないのである。*bây giờ* 「今」や *lúc đó* 「その時」などであれば、一時性とは矛盾しない。

(11) Bây giờ Bác đang học tiếng Nhật.

(今 + バック + 〈最中〉 + 勉強する + 日本語)

バックは今、日本語を勉強しているところだ。

例文 (10) は *dang* がなければ容認される。ベトナム語では習慣的動作は「裸の動詞」で表すのがふつうである。

さて、先に主体の持続的な動きが漸進的な変化を伴う動詞に触れたが、持続性のない瞬間的な主体変化を表す動詞もある。この種の動詞は、動きの局面はふつう言及の対象にならないが⁶⁾、変化の結果状態については、一時的持続的局面を取り上げられるものとそうでないものがある。前者は *dang* との共起が許されるが、後者は許されない。(12) に結果状態の一時的持続を表す例文を挙げる。

- (12) a. *Loan dang ngồi.* (ロアン + 〈最中〉 + 座る) ロアンは座っている。
b. *Cửa sổ dang {mở/dóng}.* 窓が {開いている / 閉まっている}。
(窓 + 〈最中〉 + {開く / 閉まる})
c. *Hoa dang nở.* (花 + 〈最中〉 + 咲く) 花が咲いている。
d. *Xe buýt dang ngưng.* (バス + 〈最中〉 + 止まる) バスが止まっている。
e. *Xe đạp dang hỏng.* (自転車 + 〈最中〉 + 壊れる) 自転車は故障中だ。
f. *Dây xích xe đạp dang tuột.* 自転車のチェーンが外れている。
(チェーン + 自転車 + 〈最中〉 + 外れる)

「*dang + 動詞句*」が結果状態の一時的持続の意味で解釈されるには、いずれその状態が終わり、元の状態に戻るあるいは別の状態へ移行することが前提とされている場合である。(12) の例文に即して言えば、別の姿勢をとる (12a)、窓が開いていれば閉まる、閉まつていれば開く (12b)、花が枯れる (12c)、バスが動き出す (12d)、自転車がもとの正常な状態に戻る (12e, f) といった事態が考えられる。(12) では *dang* のない文も可能であるが、その場合には結果そのものに焦点が当てられることになる。

一方、*chết* 「死ぬ」、*vỡ* 「割れる」、*quên* 「忘れる」などは、変化の実現のみが問題となる動詞である。別の状態への展開はなく、したがって結果状態の一時的持続的局面を取り上げることができない。(13) はいずれも不自然である。

- (13) a. **Tuán dang chết.* (トゥアン + 〈最中〉 + 死ぬ)

b. *Bình hoa dang vỡ. (花瓶 + 〈最中〉 + 割れる)

c. *Mạnh dang quên tên vợ. (マイン + 〈最中〉 + 忘れる + 名前 + 妻)

このタイプの動詞には、三上（2011）が「動詞+主語」文に生起する動詞として挙げた、自発変化を表す動詞の多くが含まれる（gãy「折れる」、rách「破れる」、dứt「切れる」、rơi「落ちる」など）。これらの動詞は、そのままの形で結果状態を表す。

(14) Đũa này gãy. (箸 + この + 折れる) この箸は折れている。

dangとの共起が、動きの最中の意味と結果状態の一時的持続の意味の両義的解釈を生む動態動詞もある。mặc「着る」、deo「装身具を身につける」、thắt「(ネクタイを) 締める」など、何かを身につける動きを表す動詞がその代表的な例である。

(15) Xuân đang mặc áo dài. スワンはアオザイを着ている。

(スワン + 〈最中〉 + 着る + アオザイ)

(15) は着る動きも着た後の結果状態も指示示すことができる。しかし、身につけているものを取り去る動きを表す動詞（cởi「脱ぐ」など）は結果状態の持続には言及できない。

これまでの観察から、dangとの共起が可能な動態動詞としては、動きもしくは結果状態に持続性がある動詞が、そして不可能な動態動詞としては、動きにも結果状態にも持続性がない動詞が該当することがわかった。

3. 2 静態動詞と dang

dangは動態動詞だけでなく、静態動詞とも共起しうる。状態を表す文として挙げた（1）はいずれも dangの付加を許容する。

(16) a. Tôi dang có xe máy. 私は今、バイクを持っている。

(私 + 〈最中〉 + 持っている + バイク)

b. Nam dang cần tiền. ナムは今、お金が必要だ。

(ナム + 〈最中〉 + 必要とする + お金)

c. Trời dang nóng. 暑い盛りだ。

(天気 + 〈最中〉 + 暑い)

(16a～c) が容認されるのは、文が表す事態を一時的なもの（「今まさにその状態にある」）として捉えることができるからである。さらに例を追加しよう。

- (17) a. Lan đang buồn. ランは今、悲しんでいる。

（ラン + 〈最中〉 + 悲しむ）

- b. Phim đang hay. 映画が面白いところだ。

（映画 + 〈最中〉 + 面白い）

- c. Phòng đang mát. 部屋は今、涼しい。

（部屋 + 〈最中〉 + 涼しい）

- d. Hùng đang đau bụng. フンは今、腹痛だ。

（フン + 〈最中〉 + 痛む + 腹）

- e. Trên bàn đang có sách. テーブルの上に今、本がある。

（上 + 机 + 〈最中〉 + ～がある + 本）

- f. Chiếc xe đang ở trước nhà. 車は今、家の前にある。

（〈類別詞〉 + 車 + ～にある + 前 + 家）

- g. Kiều đang là sinh viên. キエウは今、大学生だ。

（キエウ + 〈最中〉 + ～である + 大学生）

感情や感覚を表す動詞 (17a～d)、存在を表す動詞 (17e, f)、コピュラ (17g) も、*đang* と共に起ることで一時的な状態に言及することができる。このように、*đang* は、一時的な事態として捉えることができれば、動態動詞だけでなく、静態動詞とも共起が可能になるのである⁷⁾。*đang* が有する一時的な性質は、主体の恒常的・永続的な性質を表す述語を含む (18) (= 例文 (2) に *đang* を加えた文) とは相容れないことになる。

- (18) a. *Đời đang là loài động vật có vú.

（コウモリ + 〈最中〉 + ～である + 類 + 哺乳動物）

- b. *Mai đang giống bố. （ナム + 〈最中〉 + 似る + 父）

3. 3 動詞の意味素性と分類

以上、動詞が動きを表すか、状態・性質を表すかに従って、動態動詞と静

態動詞を区別し、それについて dang との共起関係を検討した。その検討を踏まえて、動詞の意味素性として「持続（動きの一時的持続 / 結果状態の一時的持続）」の有無と「結果」の有無を立てるならば、その組み合わせによって dang との共起可能性の規定および動詞の分類が可能になる。この観点から、動態動詞について整理すると、次のようになる。

まず、共起可能な動態動詞は 2 類（①と②）に分かれる。

① [+持続、 -結果]

② [+持続、 +結果]

共通する意味素性 [+持続] は、[-結果] が「動きの一時的持続」を、[+結果] が「結果状態の一時的持続」を表す。①と②の両方の性質をあわせ持つ動詞（mặc 「着る」など）もある。

そして、共起不可能な動態動詞も 2 類（③と④）に分かれる。

③ [-持続、 -結果]

④ [-持続、 +結果]

いずれも [-持続] の意味素性を持つ。

①～④の動詞例は下記の通りである。

① : ăn 「食べる」、uống 「飲む」、nói 「話す」、viết 「書く」、lên 「乗る」、
xuống 「下りる」、mở 「開ける」、vác 「担ぐ」、ôm 「抱く」、chạy 「走る」、
chảy 「流れる」、cháy 「燃える」、tăng 「増える」、giảm 「減る」、đóng
bǎng 「凍る」、tan 「溶ける」、phai 「(色が) あせる」、béo lên 「太る」、
ấm lên 「暖かくなる」、gây đi 「やせる」、yếu đi 「弱くなる」

② : ngồi 「座る」、sưng 「腫れる」、phồng 「膨れる」、đục 「濁る」、mở 「開く」、
đóng 「閉まる」、hỏng 「壊れる」、ngừng 「止まる」、tuột 「外れる」

③ : ho 「咳をする」、váp 「つまずく」、hắt hơi 「くしゃみをする」、trúng 「当たる」、tìm ra 「発見する」、mục kích 「目撃する」

④ : vỡ 「割れる」、gãy 「折れる」、rách 「破れる」、dứt 「切れる」、héo 「しおれる」、đỗ 「倒れる」、ngã 「転ぶ」、rơi 「落ちる」、rụng 「抜ける」、hết 「尽きる」、mất 「失う」、xong 「終わる」、chết 「死ぬ」、quên 「忘れる」

一方、静態動詞については、持続の有無のみが関与する。dang との共起が許されるのは、一時的な状態として取り上げられる動詞のみである。恒常

的・永続的な事態を表す動詞や別の状態への展開がない事態を表す動詞はそれから除外される。共起可能な静態動詞を⑤、不可能な静態動詞を⑥として、例を挙げておく。

⑤ : ở 「～に{ある、いる}」、có 「～が{ある、いる}、持っている」、cần 「必要とする」、trống 「空いている」、bận 「忙しい」、thích 「好む」、tiếc 「残念に思う」、buồn 「悲しい」、đau 「痛む」、mệt 「疲れる」、đói 「空腹の」、nóng 「暑い」、đắt 「高価な」、òn ào 「騒がしい」、quen 「親交がある」

⑥ : già 「老いた」、cũ 「古い」、gầy 「やせた」、cao 「背が高い」、giống 「似ている」、hợp 「適合する」、giỏi 「上手な」、kém 「劣る」、gồm 「含有する」、vi phạm 「違反する」

上記の動詞分類に関して注意すべき点のひとつに、同じ動詞が常に dang との共起可能性を等しくするとは限らないことがある。共起要素との関係によって、容認度に違いが生じることがあるからである。静態動詞 có 「持っている」の例を見よう。

(19) a. Tôi đang có tiền. 私は今 {持ち合わせがある / 裕福だ}。

(私 + 〈最中〉 + 持っている + お金)

b. *Con người đang có hai mắt. (人間 + 〈最中〉 + 持っている + 2 + 目)

(19a) は主体の一時的な状態を表す文として理解され、適格であるが、

(19b) は恒常的な事態（「人間は目を2つ持っている」）と dang との間で不整合をきたすため、不適格となる（dang を削除すると適格文になる）。

もう一例、静態動詞 kém 「劣る」の例を挙げる。

(20) a. Hà sức khỏe đang kém. ハーは今ちょうど健康がすぐれない。

(ハー + 健康 + 〈最中〉 + 劣る)

b. *Nó đang kém tiếng Anh. (彼 + 〈最中〉 + 劣る + 英語)

一時的な事態として、健康状態は言及対象になるが、能力（「彼は英語の能力が劣っている」）はそうではないということであろう（dang を削除すると適格文になる）⁸⁾。

4. 変化と状態

ベトナム語の動詞は、同じ裸の形で異なる時間的局面に言及することがある。[－持続、+結果]で規定される④類の動詞は、基本的に変化（動き）にも結果（状態）にも焦点を当てることができる。たとえば *vỡ* 「割れる」は、(21) のように用いられる。

- (21) a. Kính này *vỡ* khi đụng vào tường.

(めがね + この + 割れる + 時 + ぶつかる + 壁)

このメガネは壁にぶつかった時に割れた。

- b. Kính này *vỡ*. このメガネは割れている。

(めがね + この + 割れる)

(21a) は変化そのものを、そして (21b) は変化後の結果状態をそれぞれ捉えて表現している。次の (22) も (21) と並行的である。

- (22) a. Quần này *bẩn* khi bị ngã. このズボンは転んだ時に汚れた。

(ズボン + この + 汚れる + とき + 被る + 転ぶ)

- b. Quần này *bẩn*. このズボンは汚れている。

(ズボン + この + 汚れる)

(21) と (22) は、変化を表す動詞がそのままの形で結果状態も表す例であるが、元来、状態を表す静態動詞が変化の意味で用いられることもある。*ám* 「暖かい」を例に取って見てみよう。

- (23) a. Phòng này *ám* lâm. この部屋はとても暖かい。

(部屋 + この + 暖かい + とても)

- b. Phòng này đang *ám*.

この部屋はちょうど { 暖かい / *暖まっている } ところだ。

- c. Phòng này đang từ từ *ám*. この部屋は徐々に暖かくなっている。

- d. Phòng này *ám* ngay. この部屋はすぐ暖まる。

- e. Phòng bắt đầu *ám*. 部屋が暖まり始めた。

- f. Phòng này sẽ *ám* trong mười phút. この部屋は10分で暖かくなる。

(23a) は静的な状態を表す。(23b) は *dang* の付加により一時的な状態という時間的な限定が加えられた表現である。そこには、動的な変化の進展の意味は読み取れない。これに対して、(23c～f) の *ám* は、動的な変化の意味を帯びる。この意味は、動きを前提とする表現 (*dang* từ từ ~「(〈最中〉 + ゆっくり・徐々に～) ゆっくり・徐々に～している」、*ngay* 「すぐ」、*bắt đầu* 「始める、始まる」、*sẽ* ~ trong mười phút 「(〈未然〉 + ~ + 中 + 10 + 分) 10分で～する」) との共起によって引き出されるものと考えられる。なお、(23c～f) では変化を表す *lên* を付して *ám lén*としたほうがより正しいと感じられるようであるが、*ám* も同様の意味で使われるという⁹⁾。

5. おわりに

本稿では、*dang* との共起関係という極めて限られた視点から動詞のアスペクト的意味と分類を示したが、それらは他の時間的表現（特に、副詞的要素）との関係や他のアスペクト形式の分析に考察の対象を広げる中で修正が加えられることになる。文の時間的性質の解釈を共起要素との関係やコンテキスト情報に依存する度合いの高いベトナム語においては、当然ながら様々なタイプの文を、コンテキストを考慮しながら分析することが強く求められる。

注

- 1) *dang* 以外のアスペクト形式としては、事態の開始直前の局面を取り出す *sáp*、事態の持続の局面に関する *vẫn*、*còn*、*vẫn còn*、事態の終了直後の局面を取り出す *vừa*、*mới*、*vừa mới*、完了を表す *rồi*、未完了を表す *chưa*などがある。*dã* と *sẽ* の意味については、様々な議論があるが、本稿ではとりあえず、それぞれ「既然」、「未然」としておく。
- 2) 述語動詞はイタリック体で表記する。（ ）内のグロスは、必ずしも分かち書きしてある語それぞれに対応するものではなく、何語かをまとめた意味を記した場合もある。
- 3) 「動きの最中」の意味は、持続性の動態動詞に *dang* を付加することで表されるが、

文脈や場面によっては *dang* が必須の要素でないこともある。父と子による会話の例を挙げる。

子 : Bố đang làm gì? お父さんは何をしてるの?

(父 + 〈最中〉 + する + 何)

父 : Bố {dang/∅} đọc báo. 新聞を読んでる。

(父 + {〈最中〉/∅} + 読む + 新聞)

子 : Còn mẹ {dang/∅} làm gì? お母さんは何をしてるの?

(~の方は + 母 + {〈最中〉/∅} + する + 何)

父 : Mẹ {dang/∅} làm cơm. ごはんを作ってる。

(母 + {〈最中〉/∅} + 作る + ごはん)

最初の疑問文では *dang* が用いられているが、その後の文では *dang* がなくても、「動きの最中」の意味に解釈される。2番目の文はまた、新聞を読んでいる父を目の前にして、初出の文として発する時にも使えるが、その場合も *dang* は必須の要素ではない。コンテクスト依存性の高さを示す例の一つである。

- 4) したがって、反復的な動きには、動詞が持続的か、非持続的かという意味特徴は関係しないことになる。動詞のアスペクト的意味の分析において、反復的な動きを対象としない所以である。
- 5) *dang* は時間量のみを表す語句との相性は悪い。たとえば、
 - (i) *Bác đang học tiếng Nhật ba tiếng.
(バック + 〈最中〉 + 勉強する + 日本語 + 3時間)
は、*dang* が有する「動きの最中」という一時性とは相容れないため、不自然になる（「バックは日本語を3時間勉強している」という動きの持続の意味にはならない）。*ba tiếng* 「3時間」の前に *một ngày* 「1日」を加えると、習慣的動作として理解される。
(ii) Bác đang học tiếng Nhật một ngày ba tiếng.
(バック + 〈最中〉 + 勉強する + 日本語 + 1日 + 3時間)
バックは1日3時間勉強している。
- 6) 実際には、瞬間的な変化もスローモーション映像では持続的な動きとして捉えられることがある。その場合、持続的局面を特に取り上げる場合には、*dang* との共起は可能になる。
- 7) 一時的な状態を述べる場合、発話時（現在）の事態としては容認されないが、過去の事態としては容認される場合がある。

(i) *Quang dang gày. (クワン + 〈最中〉 + やせている)

(ii) *Bây giờ Quang dang gày. (今 + クワン + 〈最中〉 + やせている)

(iii) Lúc đó Quang dang gày. その時クワンはちょうどやせていた。

(時 + その + クワン + 〈最中〉 + やせている)

(i) と (ii) は容認されない。現在の時点では、やせている状態から別の状態に変化することが想定しにくいが、(iii) のように、過去の一時点を表す *lúc đó*「その時」を付加すると、現在はそうではないという含意が生じるため、容認可能となるのであろう。

Nguyễn Minh Thuyết (1995:8) は、*dang* を *phi hoàn thành tiếp diễn* (imperfectif progressif) とした上で、結果を含意する動詞あるいは複合動詞 (*hiểu* 「理解する」、*bíết* 「知る」、*tìm thấy* 「見つける」、*tìm ra* 「見つける」、*làm được* 「することができる」 ...) とは結合できないと述べている。

また、Cao Xuân Hạo (1998:487) は、反意語のペアを挙げて、*dang* との結合の可否を示している。*dang mới* 「新しい」 — **dang cũ* 「古い」、*dang nhô* 「小さい」 — ?*dang lớn* 「大きい、大きくなる」、*dang sống* 「生の」 — ?*dang chín* 「熟した、熟れる」、*dang sớm* 「早い」 — **dang muộn* 「遅れた」、*dang trẻ* 「若い」 — ?*dang già* 「老いた、老いる」、*dang còn* 「残っている」 — **dang hết* 「尽きる」 (*dang* を除いた単語の意味を「 」内に示した)

疑問符付きの *dang lớn*、*dang chín*、*dang già* については、脚注で「状態ではなく過程として理解されるならば、容認可能であるが、*dang lớn lén*、*dang già di*、*dang chín dàn* としたほうがはるかに自然である」と述べている。つまり、変化を表す語を付加したほうが過程の意味が明確になるということである。上掲の例で、*dang* との結合が不自然とされる動詞は、別の局面への展開を想定することが難しい事態を表す。

8) 例を追加しておく。次の (i a, b) は、①類の動詞 *chảy ra* 「流れ出る（流れる+出る）」を用いた例であるが、アスペクト的性質は (19a, b) と並行的である。

(i) a. Máu *dang chảy ra*. 血が流れ出ているところだ。

(血 + 〈最中〉 + 流れ出る)

b. *Sông Cửu Long *dang chảy ra biển Đông*.

(メコン川 + 〈最中〉 + 流れ出る + 南シナ海)

(ia) は一時的な状況として解釈されるが、(ib) は永続的な状況（「メコン川は南シナ海に注いでいる」）と *dang* との間で意味的な矛盾が生じるため、不適格文となる (*dang* を削除すると適格文になる)。

(ii) は③類の動詞 *nổ* 「爆発する」の例である。

(ii) a. *Lốp xe tôi *dang nổ*. (タイヤ+車+私+〈最中〉 + 爆発する)

b. Xe tôi *dang nổ lốp*. 私の車は今タイヤがパンクしている。

(車+私+〈最中〉 + タイヤがパンクする)

(iia) の *nổ* は「爆発する」という意味の非持続性動詞であり、*dang* と適合しない。それに対して、(iib) では、*nổ* が *lốp* と結びつき、固定表現として「タイヤがパン

クする」ことを表し、dang と共に起ると、結果状態の一時的持続の意味に解釈される。

9) 下記 (i) (ii) の khô はどのように解釈すべきであろうか。

(i) Trời đang khô. 今空気が乾いている。

(天気 + 〈最中〉 + 乾いている)

(ii) Vải này đang khô. この布は乾いている途中だ。

(布 + この + 〈最中〉 + 乾く)

(i) は変わる性質を持つ天気について、「今空気が乾燥している」という一時的な状態を表す。一方 (ii) は（たとえば、布が乾く瞬間をスローモーション映像で見られるような場合に限って使われる表現であるが）、変化後の結果状態ではなく、動きの過程を捉えた表現である。(ii) の khô は動態動詞としての用法であるが、(i) の khô については、これを静態動詞と見るか、動態動詞と見るかという問題がある。前者の見方では、khô が 2 つの動詞類に属することになるが、後者の見方では、(i) は結果状態の一時的持続を表していると解釈され、(i) (ii) とも動態動詞として位置づけられることになる。khô の例からもうかがわれるよう、動詞が動き（変化）と状態の両方の意味を表す用法を持つ場合に、基本的意味（動きか、状態か、あるいは両方か）をどう決定するかは、形態変化を欠くベトナム語のような言語においては特に難しい問題である。

参考文献

- 金水敏 (2000)「時の表現」金水敏、工藤真由美、沼田善子 (著)『日本語の文法：時・否定の取り立て』3-92. 岩波書店.
- 日本語記述文法研究会 (2007)『現代日本語文法3』くろしお出版.
- 三上直光 (2011)「ベトナム語の「動詞+主語」文に関する若干の考察」『慶應義塾大學言語文化研究所紀要』42: 317-327.
- レー・バン・クー (2001)「ベトナム語の「完了形」dã... (rõi)」つくば言語文化フォーラム (編)『「た」の言語学』251-296. ひつじ書房.
- Cao Xuân Hạo (1998) *Tiếng Việt-Máy văn dè ngữ âm, ngữ pháp, ngữ nghĩa*. TP. HCM: Nhà Xuất Bản Giáo Dục.
- Nguyễn Minh Thuyết (1995) Các tiền phố từ chỉ thời-thể trong tiếng Việt. *Ngôn Ngữ* 2: 1-10.

※本稿作成に当たり、ベトナム語インフォーマントとして Vũ Đăng Khuê さん（1952 年旧ハソンビン省生まれ、男性）にご協力いただいた。記して謝意を表したい。